opusdei.org

## エチェバリーア司教 のインタービュー

ご聖体に関する世界代表司教会議にあたって、「ラ・ガセータ・デ・ロス・ネゴシオス」紙のフェルナンド・ラヨン(以下、FR)とのインタービュー(2005年10月10日)

2005/10/16

FR エチェヴァリーア司教様、今回の世界代表司教会議の特徴は「硬直化」だという人がいますが…

JE司教 それは間違いでしょう。教皇 様は世界中の司教とお招きになった 神学者と専門家たちの考えに耳を傾 けたいとお望みです。ご聖体の秘跡 をより一層良い方法で生きるために 役立つ諸問題を分析し、教会全体に とって大きな助けになる決定がなさ れるものと確信しています。

FR ベネディクト16世が、ベルナール・フェライ(レフェブレ・グループのリーダー)、それにハンス・キュングと会われたニュースを見ると、現教皇様の別のイメージが見えてくるのですが、どうお思いですか?

JE司教 会見の内容についてはあまり 資料をもっていませんが、教会がす べての人に開かれた存在であること に変わりはないということは明らか です。教皇様は人々が神に近づける よう、神のために人々を取り戻すよ う、できるだけのことをなさってい ます。真理を探し求めている人な ら、神を見つけるでしょう。

FR 数日前、ベネディクト16世教皇 はバチカンでオプス・デイ創立者の 彫像を祝福されました。オプス・デ イは前の教皇と同じように現教皇と も良い関係を保つのでしょうか?

JE司教 聖ペトロ大聖堂には150体のあらゆる時代の聖人像が置かれてあります。教皇様がこれらの彫像を祝福なさるということには大きな意味があると考えての善徳にはない。 というとには大きないまでもないます。 には大きないます。 には大きないます。 を築き、その善徳にまちなきなったす。 を築きないることによると表しているがカトリのを提供しているからです。

FR オプス・デイにとって、どういう意味がありますか?

JE司教 具体的に聖ホセマリアの場合、聖ペトロ大聖堂のその姿は属人

区が教会に仕えるためであることを示し、また、教会に仕えることがすべての信者の熱い望みであることを表わしていると考えます。

FR 教皇は彫像を祝福しされましたが。

JE司教 ご存じのように、ベネディクト16世の祝福は私にとってこの上ない喜びでした。あの祝福のとき、知れセマリアなら言うだろうと思わた。ことが、頭に浮かんできました。聖ホセマリアは、特別な日も含めて日常のようとがら、大勢の人が気付かなったとがらを大切にすべきであると教えていたのです。

FR 1975年に創立者が帰天してから 今まで、属人区に変化がありました か?

JE司教 オプス・デイは生きた組織で すから、時とともに成長し円熟しま す。勿論それは、神の恩寵とその計画に従って、また一人ひとりの男女の戦いを続ける努力、さらに素晴らしい学び舎ともいえる個人的な失敗のおかげでそうなるということです。

FR 失敗もあったでしょうが、ヨハネ・パウロ2世教皇の時には、オプス・デイがあらゆる意味で発展を遂げたことは否定なさらないでしょう?

JE司教 この30年間には、当然ながら、人や国や新しい使徒職という点で大きな進歩がありました。教会と世界の状況が変わりました。ヨハネ・パウロ2世の存在の大きさを考えるだけでもそれがわかります。オプス・デイにおいて、創立の精神そのもの、日常生活と職業そしてキリスト者としての義務の遂行を通して聖性を目指し使徒職をすることへの

招きなど、本質的なことがらには何 らの変化もありません。

FR もっとも大きな変化は何でしよう?

JE司教 あなたの言葉を使って大きな変化というなら、それは、多分、1975年以後に起こった二つの大切を記述を関係があります。最初をと関係が予見していたことと関係が予げるとしても関係が予げるといるです。このでは計らしているの列聖です。このには計らしても対しまです。ははいるでも教会におけるオプスとの霊的な目的が荘厳に確認された。中でも教会におばに確認されたの霊的な目的が荘厳に確認された。から点です。

FR 列聖はメンバーにとってどのような意味をもっていますか?

JE司教 私見によれば、列聖と共に、 属人区の信者がより強く責任を感 じ、福音宣教にコミットするよう励まされ要求されていると感じたことでしょう。列聖式に先立つ数ヶ月間、少なくとも私は列聖によって新たな改心と新たな神探求に向かわなければならないと自分に言い聞かせていました。

FR その改心は、今オプス・デイが繰り広げている新しい使徒職と関係がありますか?

JE司教 使徒職はそれぞれの場に固有な必要にかかっています。社会と人々の新たな必要に応じて適切を追しています。具体的に高いなが生まれます。具体的に関する種が生まれまでです。を動したが、大勢の大きのですがないですが、大勢の大きではいるが、大勢の大きです。結婚した男のの霊が成、夫婦愛や大めの霊が成、夫婦愛や大きです。

FR 属人区の使徒職は家族に向けられているようですね?

JE司教 この種のイニシアティヴが無数に現れるのは当然だと思われます。今も昔も、家族はいのちと幸せの源だからです。家族的な面の重要性がますます増していることは明らかです。人々にとってどうしても必要な愛情と社会に必要な力を与える家族の重要性が強く感じられているのです。

FR 家族に関係のある使徒職はオプス・デイ特有のものですか?

JE司教 オプス・デイにおいて、使徒職は人から人、友人から友人へ、という具合に行なわれます。福音宣教に効果が上がるかどうかは構造や組織の問題ではありません。大切なのは、カトリック者がイエス・キリストの御言葉の美しさと真実を発

見するよう助け、周りにいる人たちと愛をもって接することです。

FR それはすべてのキリスト者の使 徒職でもありますね。

JE司教「仕えるために(あるいは役に立つために)使える」と聖ホセマリアは繰り返し教えました。このではなの福音宣教の仕事に当てのまることに疑いはありません。人とに仕えるならば、福音の伝達者としての証明はこのように要約できるのではないでしょうか。

FR オプス・デイが二人の枢機卿と、ブルゴスとバルセローナの二人の司教を有するということは、属人区にとって影響がありますか?

JE司教 お答えする前に、ご質問にある言葉について確認させてください。オプス・デイは枢機卿も司教ももっていないからです。枢機卿や司

教は仕事の面で教皇様に依存してるしてるというな大さいう言ということに申してるよいないではないではないでは、というではないでは、ません。というでは、ません。というでは、まなる」とにする」というではない、はなるになるになる。

FR今のご説明を受け入れます。

JE司教 ご免なさい。こういうことを申し上げたのは、間違った考えをして、教会は信者を好きなようにあるというような意味で話すことがあるからなのです。ところが、教会とは人々が自由に生きる場です。また、オプス・デイにおいて、自分と他人との自由の第一の擁護者は常に聖ホセマリアでした。

FR しかし、任命がオプス・デイに 影響を与えなかったはずはないと思 うのですが。

JE司教 属人区の司祭が枢機卿や司教 に任命されるということは、実は、オプス・デイに固有な使徒職にとって大切な働き手を失うことになります。勿論、こういうかたちで教会に 仕えることですから、喜んで受け入れます。

FR 自由の話になりましたが、スペインは事実上キリスト教的でなくなりました。法律においても習慣においても。この国の将来をどうお考えでしょうか?

JE司教 おっしゃったような絶対的な言い方はそのまま受け入れることができません。スペイン社会の大部分はキリスト教的だと今も考えています。多くの面で、社会の殆どのところで、キリスト教的な生活をしていると思っています。たとえば、豊か

な伝統、それは宗教的な意味を保存しており、生活にしっかりと根を下ろし、人気があります。また、現実には、キリスト者とは個々の人格であることを申し上げておきたいと思います。

FR おそらく、スペインでは信者であると自称する人々が実はそうではなく、信者らしい生活をしていないのではないでしょうか?

ての権利と義務を行使するならば、 スペインにおける教会の展望は希望 に満ちたものとなるでしょう。

FRでも、雰囲気がキリスト教的でないということは否定できないのではありませんか?

JE司教 外的な雰囲気は確かに影響を与えますが、信仰の将来は何よりもキリスト者の忠実にかかっています。

FR 多分、司教様がケルンでご覧に なった青年たちとは異なるのではな いでしょうか?

JE司教 ケルンの集いに参加した人たちは、大勢の青年たちが神に出会いたいと熱く望んでいる様子を目の当たりにしましたが、彼らだけでなく、世界の隅々から起こった大動員を見て心を動かされた大人たちも、同じ望みを体験したのです。

FR しかし、ケルンを別にすれば、 世界は神から離れていると言えるの ではありませんか?

JE司教 おっしゃるとおりです。他にも多くの兆候があります。残念見ているな見ない。 残念見れ、他所を見るいるようです。一覧表を作る必要せんが、ベネディクト16世界、はおりませんが、描されたように指摘されたように指摘されたように表がしたが、現代社会の良い面に目を閉じたりしたくはありません。

FR ところで、キリスト者はこのような状況を前にして何ができるのでしょうか?

JE司教 いずれにしても、悪に対する 態度は不平を言うことでも嘆くこと でもなく、謙遜と喜びの心で決心を して、たとえ砂の一粒に思えるよう であっても皆で善を広げることで す。聖ホセマリアが好んで繰り返した言葉を思い出します。「平和とよろこびの種蒔人」、これこそキリスト者のなすべきことです。

FR スペインでは公的な生活にオプス・デイが存在するのを怪しむ人がいるようですが。オプス・デイの力や活力...

JE司教 あなたがおっしゃったこと は、実際にはずっと少ないのです が、その人たちの態度はすでにお話 した問題を反映していると考えま す。即ち、カトリック信者全員を、 特にオプス・デイの信者を、一つの 集合体の部品や組織の部分のように 考え、彼らが上からの命令に盲目的 に従い、政治的なことがらにおいて 団体として行動するという思い違い です。現実はまったく異なります。 スペイン、ここ80年足らずの間にオ プス・デイを直接に知った数百万の

人々は各自の自由をどれほど尊重しているかの証人です。

FR 多分、オプス・デイの信者が政 治の政治に世界に入るのを拒絶して いるのでしょう。

JE司教公的生活と政治におけるカトリック者の自由が理解されるにつれて、また過去のイデオロギーや閉ざされた狭いメンタリティーに属するような考え方が克服されるにしたがって、オプス・デイの信者も他の市民とまったく同じ自由を享受しているという事実が理解されることでしょう。

FR 教会の様々な組織は社会で重要な役割を果たすとお考えですか?

JE司教 現代社会の進歩を示す一つの 大きな兆候は、日毎に、市民・普通 の人間の諸権利を考慮するという点 でしょう。人間の共同体は自由に選 挙権を行使し、税金を支払い、ます ます専門化した職業に従事するなど のかたちで形成されています。社会 を形成するに当たり決定力を有する のは市民・国民です。

FR そのような人間にとって宗教が 提供することがらは関心があるとお 思いですか?

JE司教 勿論、そう思います。教会が信徒の間で、福音宣教を繰り広る は当然であり自然なことです。自然なことです。自然なことです。自然なことです。自然なことです。所述をもって信仰の光を入間の出版をさらに尊厳あるものにし、時らに見合った社会を建設するです。

FR しかし、宗教が提供するものに対して関心を示さないかもしれません。

JE司教 教会の目的・行き先と世界の目的・行き先とは対立しないだけでなく、別々の道でもありません。いずれも市民・国民の責任、カトリック者の責任、特に信徒の責任にかかっています。

FR 司教様は楽観的な方ですね。

JE司教 歴史の変転を越えて、主の約束は私たちの希望の確かな根拠だからです。「私は世の終わりまであなたたちとともにいる」とおっしゃったのです。この御言葉こそ、私を楽観的にさせる理由です。たとえ、らなしみや困難を克服しなければならるいとしても、真理は必ず勝利を得るからです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/echiebariasi-jiao-nointabiyu/(2025/11/20)